

## ○一般社団法人 日本森林学会 2015年定時総会議事録

日時:2015(平成27)年5月28日(木)10:00~11:30

場所:日林協会館 3階 大会議室

代議員総数:50名

**出席代議員:**北村系子,久保田多余子,石崎涼子,井出雄二,井上真理子,大河内勇,太田祐子,白石則彦,鈴木牧,田中浩,丹下健,津村義彦,戸田浩人,福田健二,古澤仁美,正木隆,宮本麻子,蔵治光一郎,竹中千里,横井秀一,黒田慶子,谷川東子,佐藤宣子(23名)

**代理出席代議員:**小池孝良,徳田佐和子,中村太士,牧野俊一,泉桂子,柴田銃江,橋本良二,松木佐和子,浅野友子,高橋正通,吉丸博志,板谷明美,中川弥智子,福田秀志,山田容三,大浦由美,大住克博,大田伊久雄,徳地直子,平山貴美子,深町加津枝,山本伸幸,吉永秀一郎,伊藤哲,川口エリ子,森貞和仁,吉田茂二郎(27名)

**出席役員等:**大河内勇会長,黒田慶子副会長,正木隆,田中浩,福田健二,太田祐子,阿部恭久,佐藤宣子,竹中千里,戸田浩人,石塚和裕,船田良,松本光朗,小島克己各理事,井出雄二監事,上野真義,小松雅史,當山啓介,吉田智弘各主事,稲村崇子(事務局)

**議長:**津村義彦

### 議事経過の概要およびその結果:

正木総務理事によって過半数の代議員の出席・代理出席が報告され,開会した。大河内会長の挨拶に続き,議長に津村代議員が選出され,議事に移った。定時総会の審議・報告事項は,以下の通りである。

### 審議事項:

#### 第1号議案 2014年度事業報告(案)(別紙資料1)

正木理事より,2014年度事業報告(案)が説明され,満場一致で承認された。

#### 第2号議案 2014年度決算報告(案)(別紙資料2)

田中理事より,2014年度決算報告(案)が説明され,満場一致で承認された。

#### 第3号議案 日本森林学会学術大会運営規則の改正(案)(別紙資料3)

正木理事より,日本森林学会学術大会運営規則の一部変更(案)が説明され,原案通り,満場一致で承認された。古澤代議員より,総会へ出席する際の旅費の支給について質問があり,大河内会長からなるべく自費で参加していただきたいが,旅費支給の要望があれば別途考慮するとの回答があった。また井上代議員より,関東以外の地方で総会を開催する予定はあるのかとの質問があり,正木理事から総会の開催場所については特に規定がないので関東以外の地方で総会を開催することは可能であると回答があった。さらに正木理事は,多くの人に集まってもらうことを考えると東京で開催するのがよいのではないのかとの意見を述べた。

#### 第4号議案 新役員(大会担当理事)の選任

正木理事より,大会担当理事の丸谷知己氏(第126回大会運営委員長)の退任が報告され,後任の大会担当理事候補(任期:2015年定時総会終結時~2016年定時総会終結時)が提示され,井上公基氏(第127回大会運営委員長)が満場一致で選任された。

### 報告事項:

#### 報告事項1 2014年度監事監査報告

井出監事より,2014年度監事監査において,事業・会計ともに適法かつ正確と認められたことが報告された。

#### 報告事項2 2015年度事業計画(別紙資料4)

正木理事より,2015年度事業計画が報告された。

#### 報告事項3 2015年度予算(別紙資料5)

田中理事より,2015年度予算が報告された。

**報告事項4 内規の改正(別紙資料6)**

正木理事より, 内規の改正について報告された。

**報告事項5 2014年度林業遺産の選定**

大河内会長より, 2014年度林業遺産の選定について報告があった。

**報告事項6 第126回日本森林学会大会の準備状況**

阿部恭久第126回大会運営委員長代理より, 第127回大会(日本大学)の準備状況が報告された。

以上で本代議員会の全ての議案の審議・報告を終了し, 閉会した。

**議事録作成者:**正木隆, 上野真義

## ○別紙資料 1 2014(平成 26)年度事業報告

(1) 「日本森林学会誌(日林誌)」の発行：2014年4月(第96巻第2号)、6月(同3号)、8月(同4号)、10月(同5号)、12月(同6号)および2015年2月(第97巻第1号)の年6回発行し、科学技術振興機構のJ-STAGEで公開した。第96巻第5号に、第125回日本森林学会大会における国際シンポジウムおよび男女共同参画関連企画100周年記念特別セッションの記録を掲載した。論文25編、短報10編、総説6編、その他7編を掲載し、総計337ページになった。ページ数は昨年度に比べて20%増であった。第97巻第1号より、表紙写真を変更した。また、第97巻に掲載予定の特集企画案の募集を行なった。

(2) 「Journal of Forest Research (JFR)」の発行：2014年4月(Vol. 19 No. 2)、6月(No. 3)、8月(No. 4)、10月(No. 5)、12月(No. 6)および2015年2月(Vol. 20 No. 1)の年6回発行した。Original Article 51編、Short Communication 11編を掲載した。総ページ数は533ページと昨年度に比べて14%減少したが、主にページ数の配分の都合によるものである。電子版の周知を図るため、メールマガジンを用いて会員に発行を知らせるとともに、日林誌と学会ウェブサイトで発表論文の日本語書誌情報を掲載した。インパクトファクターは2012年の0.838から2013年の1.009に上昇した。5年インパクトファクターは2012年の1.077から2013年の0.970へと若干低下した。

(3) 「森林科学」の発行：2014年6月(71号)、10月(72号)、2015年2月(73号)の年3回の発行を行った。特集「森林学会100年の歴史を振り返る」「原発事故と福島の森林再生」「花粉症研究最前線」をはじめ、シリーズ「森めぐり」「現場の要請を受けての研究」「うごく森」「森をはかる」「林業遺産」等、総計144ページの掲載を行った。また、森林文化協会編集の年刊誌「森林環境」とのコラボレーションの一環として、「森林環境2014」の書評掲載、森林環境幹事会への編集部からのオブザーバ参加を行った。

(4) 「日本森林学会メールマガジン」の発行：臨時メールマガジン2号(第51号、52号)を含め、第44号(2014年3月)～第57号(2015年2月)を発行した。

(5) ウェブサイトの更新：ウェブサイト更新を随時行い、最新情報を掲載した。大会や表彰をはじめとする各種の学会情報を会員に発信するとともに、学会刊行物などの学会活動について随時発信・広報した。大会発表申し込みおよび発表要旨集のオンライン入稿を支援した。大会ページを見やすくするように努力した。林業遺産・男女共同参画への取り組みのページを独立させた。その他、研究集会・シンポジウムや公募等の関連情報を提供・広報した。

(6) 第125回日本森林学会大会の開催：関東森林学会の推薦により、東京大学が開催校となり埼玉県さいたま市(大宮ソニックシティ)で開催した(2014年3月26～30日；大会運営委員長：酒井秀夫会員、東京大)。部門別口頭発表202件、部門別ポスター発表464件、テーマ別シンポジウム19テーマ180件(口頭発表149件、ポスター発表31件)だった。国際公開シンポジウム「森林と人類の未来」、および男女共同参画関連企画100周年記念特別セッション「男女共同参画の実現からダイバーシティの推進へ」を開催した。大会の開催に伴い、「第125回日本森林学会学術講演集」を発行した。高校生のポスター発表を実現した。

(7) 第126回日本森林学会大会の開催準備：北方森林学会の推薦により、北海道札幌市(北海道大)での開催を準備した(2015年3月26～29日；大会運営委員長：丸谷知己会員、北海道大)。2014年5月1日に大会運営委員会引継会議を実施した。部門別口頭発表170件、公募セッション口頭発表101件、企画シンポジウム口頭発表119件、部門別ポスター発表459件、公募セッションポスター発表38件の総計887件、高校生ポスター発表24題を予定している。公開シンポジウム「森林づくりと生物多様性保全」を企画した。

(8) 第127回日本森林学会大会の開催準備：第127回大会の開催にあたって、関東森林学会の推薦に基づき、大会開催機関を日本大学とし、大会運営委員長(井上公基会員、日本大)を委嘱し、大会運営委員会を設置した。同大会は2016年3月27～30日に開催される予定である。

(9) 第128回日本森林学会大会の開催準備：第128回大会は九州森林学会の推薦に基づき、鹿児島大学で開催することを決定した。

(10) 日本森林学会各賞の選考および日本農学賞等への学会推薦：日本森林学会賞は、斎藤真己会員(富山県農林水産総合技術センター)の「無花粉スギ品種の開発と普及」、五味高志会員(東京農工大学)の「森林施業による水流出プロセス・河川環境変化の評価とそのモデル化」、北尾光俊会員(森林総合研究所)の「樹冠内の光環境を考慮した樹木成木のオゾン影響評価に関する研究」に、日本森林学会奨励賞は、小笠真由美会員(東京大学)の「Recovery performance in xylem hydraulic conductivity is

correlated with cavitation resistance for temperate deciduous tree species」, 深澤 遊会員 (東北大学) の「Effects of wood decomposer fungi on tree seedling establishment on coarse woody debris」, 田原 恒会員 (森林総合研究所) の「Identification of a hydrolyzable tannin, oenothin B, as an aluminum-detoxifying ligand in a highly aluminum-resistant tree, *Eucalyptus camaldulensis*」, 橋本 昌司会員 (森林総合研究所) の「Predicted spatio-temporal dynamics of radiocesium deposited onto forests following the Fukushima nuclear accident」に, 日本森林学会学生奨励賞は, 石塚 航会員 (北海道立総合研究機構林業試験場) の「Modeling intraspecific adaptation of *Abies sachalinensis* to local altitude and responses to global warming, based on a 36-year reciprocal transplant experiment」, 曾我 昌史会員 (北海道大学) の「Life-history traits affect vulnerability of butterflies to habitat fragmentation in urban remnant forests」, 安藤 温子会員 (京都大学) の「Diet analysis by next-generation sequencing indicates the frequent consumption of introduced plants by the critically endangered red-headed wood pigeon (*Columba janthina nitens*) in oceanic island habitats」に授与することを決定した。また, Journal of Forest Research 論文賞は, JFR 論文賞選考委員会が選考し, 理事会で審議した結果, 同誌 19 巻 1 号に掲載の Ikutaro Tsuyama, Katsuhiko Nakao, Motoki Higa, Tetsuya Matsui, Koji Shichi, Nobuyuki Tanaka「What controls the distribution of the Japanese endemic hemlock, *Tsuga diversifolia*? Footprint of climate in the glacial period on current habitat occupancy」に, 日本森林学会誌論文賞は, 日林誌論文賞選考委員会が選考し, 理事会で審議した結果, 同誌 95 巻 4 号に掲載の山川 博美・重永 英年・久保 幸治・中村 松三「植栽時期の違いがスギコンテナ苗の植栽後 1 年目の活着と成長に及ぼす影響」に, 第 125 回日本森林学会大会学生ポスター賞は, ポスター賞選考委員会が選考し, 理事会で審議した結果, 16 名の学生会員に授与することを決定した。また, 日本農学会賞, 日本農学進歩賞について会員からの推薦を受け付け, 理事会で本学会推薦業績を決定した。日本農学進歩賞に推薦した森口 喜成会員 (新潟大学) が第 13 回日本農学進歩賞を受賞した。

(11) 学会活動の活性化: 学生会員の拡大および学会事業の推進を図るため, ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動, および連携学会・他学会・外部機関との連携強化を通じて, 学会活動の活性化に努めた。本部から会長, 副会長が各連携学会大会に, 第 451 回理事会に連携学会長が出席するなど, 連携学会との協力を図った。日林誌編集委員会において, 日林誌のスキームの作成および原稿種別の改訂等を行うことにより, 学会活動の活性化を図ることについて議論した。

(12) 社会への広報活動: 第 125 回日本森林学会大会における国際公開シンポジウムの記録の公開に向けて準備した。

(13) 男女共同参画の取り組み: 第 125 回日本森林学会大会における男女共同参画関連企画 100 周年記念特別セッションを実施した (2014 年 3 月, 埼玉県さいたま市)。男女共同参画学協会連絡会の活動に参加し, 10 月に東京大学 (駒場) にて開催されたシンポジウムでのポスター発表, 連絡会議への出席を通して情報発信・情報収集を行った。また, 連絡協議会が主催する女子中高校生の夏の学校に, 100 周年記念大会の記念品を提供した。学会のウェブページの更新も行った。

(14) JABEE (日本技術者教育認定機構) への協力: JAFEE (森林・自然環境技術者教育会) 通常総会への出席, JABEE の各種委員会および JAFEE の運営委員会・分野審査委員会に委員を出し, 活動・運営に協力した。JABEE の農学系分野審査講習会へ講師を派遣した。また, JAFEE における CPD (技術者継続教育) の教材として森林科学を提供した。林業再生のための人材育成体系の検討に参画し, 森林・林業人材育成のためのシンポジウムの計画を進めた。

(15) 他学会との連携: 各連携学会 (北方森林学会, 東北森林科学会, 関東森林学会, 中部森林学会, 応用森林学会, 九州森林学会) 大会を共催し, 役員の派遣を通じた交流に努めた。木材学会との交流体制を継続するとともに, 第 125 回日本森林学会大会 (東京大学: 2014 年 3 月) では, 木材学会から 5 名の招聘を行う等, 連携を推進した。また, 木材学会・土木学会とともに「木材の利用拡大に関する横断的研究会」を運営し, 提言「土木分野における木材利用の拡大へ向けて」を行った。また, 運営委員・評議員の派遣等を通じて日本農学会の運営に協力した。

(16) 学術シンポジウム等の開催・広報: 2014 年 10 月に東北森林科学会の企画による公開シンポジウム「里山広葉樹林の保全と活用ー東北の可能性」を主催した。第 126 回日本森林学会における公開シンポジウムの準備を進めた。第 127 回日本森林学会大会 (開催: 日本大学) に向けて, 大会運営委員会においてテーマの検討を行い, 「緑と水の森林ファン」への応募準備を進めた。また, 以下の 6 件の学術シンポジウム等の共催, 後援, 協賛, 広報, その他 32 件の学術シンポジウムや研修会等の広報を通して, 国内における学術活動に協力した。

1. 農学会・日本農学アカデミー共同主催公開シンポジウム「放射性物質の除染・汚染水漏洩の現状を

問う！」(2014年3月)の協賛

2. 森林総合研究所公開シンポジウム「ゲノムが拓くわが国の林業と森林管理」(2014年5月)の後援
3. 土木学会主催「第13回木材利用研究発表会」(2014年7月)の後援
4. (社)日本流体力学会「日本流体力学会年会2014」(2014年9月)の協賛
5. 日本エネルギー学会「第10回バイオマス科学会議—都市と農村を結ぶバイオマス科学—」(2015年1月)の協賛
6. 森林総合研究所 REDD 研究開発センター国際セミナー「REDD プラスの資金メカニズムとその活用」(2015年2月)の後援

**(17) 国際学術交流の推進：**国際的学術交流の一環として、外国人研究者の学会参加を促進するため、学会 Web の英語ページの充実と大会のお知らせの英語ページの作成を行った。

**(18) 社会連携および日本学術会議等への協力・連携：**日本学術会議主催のシンポジウム開催に関する会員への情報提供など、日本学術会議の活動に協力した。日本森林学会としての対応が必要な社会連携の課題(震災対応、土木での木材利用、森林・林業再生プラン、独立行政法人研究機関のあり方、科学技術政策等)が増加しており、その課題に組織的に対応するため、「社会連携委員会」を常置委員会として設置した。委員長(副会長兼務)と17分野の委員、および事務局の19人を選任した。

**(19) 国内研究機関連携の推進：**国内研究機関間の研究情報交換の実態把握のために、森林学会の会員動向調査を開始した。

**(20) 各種補助金の申請：**JFR 刊行の補助のため申請していた2014年度科学研究費補助金、「研究成果公開促進費(国際情報発信強化、学術図書、データベース)」の「国際情報発信強化(B)」は不採択だった。シンポジウム「里山広葉樹林の保全と活用—東北の可能性」(2014年10月)の助成のため申請していた2014年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表B」が採択された。同種目に2015年度に開催されるシンポジウムへの助成の申請は見送られた。2015年3月に第126回大会で開催する予定の公開シンポジウム「森林づくりと生物多様性保全」の資金助成については、2014年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」に申請し採択された。

**(21) 他機関等の賞、奨励金、助成金、公募等の広報および候補の推薦：**第5回(平成26年度)日本学術振興会育志賞に1名を学会推薦した。16件の教員公募、4件の研究助成の公募、4件の賞の公募、その他22件の公募をウェブサイトおよびメールマガジンで広報した。

**(22) 学会運営の改善：**各種委員会においてメーリングリストを活用したほか、メール理事会を計7回開催し、会議にかかるコストを節約するとともに、議論の内容の充実を図った。メールマガジンに加えて、会員にメールを配信し、会員への迅速な情報提供と経費削減に努めた。また、会費の督促等において会員との連絡に郵送に替えてメールを利用し、通信費を削減した。定款の改正を行いプログラム編成委員会と社会連携委員会を常置委員会とした。選挙規則、表彰規則、理事会内規、表彰規則運用内規、学生ポスター賞授与内規の改正を行った。林業遺産選定内規、プログラム編成委員会内規、社会連携委員会内規を制定した。

**(23) 100周年記念事業：**2014年3月に開催された第125回日本森林学会大会(100周年記念大会)において、以下の内容にて記念事業を行った。1) 2014年3月27日に一般社団法人日本森林学会・公益社団法人国土緑化推進機構主催 日本森林学会100周年事業・国際森林デー記念 国際公開シンポジウム「森林と人類の未来」を行った。2) 同28日に記念式典を第125回大会会場で行い、農林水産大臣、埼玉県知事等の来賓挨拶、表彰を行った。3) 『教養としての森林学』を記念出版した。4) 記念式典において林業遺産(10件)の認定証の交付を行った。5) 記念品としてオリジナル絵はがき等を作成した。また、大会での記念展示(五葉松盆栽)等を推進した。6) 特設のウェブサイトをもうけ、広報、申し込み受付、バナー広告などを実施した。7) 協賛企業、賛同企業を募った。

**(24) 林業遺産の選定：**100周年記念事業で選定した10件の林業遺産についてプレスリリースを行った。今年度の林業遺産候補の推薦公募を行った。その結果、前年度に保留とした案件を含む計6件の応募があり、林業遺産選定委員会で審議を行った。林業遺産選定体制の改革方針について検討した。

**(25) 中等教育との連携：**事業計画に基づき、第125回日本森林学会大会において、高校生のポスター発表を推進した。全国から23校(30件)の申し込みがあり、盛況に終わった。それらの様子については、森林科学ならびに山林に中村太士、井上真理子がそれぞれ概要報告した。さらに、126回日本森林学会大会(札幌・北海道大)での開催をめざして、日本生物教育会にてブースを設けたり、全国高等学校森林・林業教育研究協議会など様々なチャンネルを通じてPR活動を行ったりした。

**(26) 名簿の発行：**2014年度版名簿を発行した。

(27) 一般社団法人としての対応：役員の選挙に伴い、理事・監事を修正登記した。

(28) 会員の動向（2015年3月1日現在）：

種 別 内 訳	2015/3/1	前年3月1 日からの増 減	2014/3/1
	会員数		会員数
正会員	2444	103	2341
国内正会員	1868	75	1793
a) 日林誌のみ	1297	72	1225
b)+JFR	86	▲ 5	91
c)+森林科学	222	6	216
d)+両誌	263	2	261
国内学生会員	561	36	525
a) 日林誌のみ	527	46	481
b)+JFR	2	▲ 4	6
c)+森林科学	11	▲ 6	17
d)+両誌	21	0	21
海外在住正会員 <sup>注1)</sup>	8	▲ 7	15
a) 日林誌のみ	7	▲ 7	14
b)+JFR		0	
c)+森林科学		0	
d)+両誌	1	0	1
海外在住学生会員 <sup>注1)</sup>	6	▲ 2	8
a) 日林誌のみ	3	0	3
b)+JFR	3	▲ 2	5
d)+両誌		0	
機関会員	124	▲ 3	127
国内機関	119	▲ 3	122
海外機関	5	0	5
賛助会員	40	▲ 2	42
合 計	2608	98	2510
「森林科学」定期購読者	251	2	249

注1) 在外邦人を含む

○別紙資料2 2014(平成26)年度決算報告

収 支 計 算 書

平成26年3月1日から平成27年2月28日まで

一般社団法人 日本森林学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	24,158,600	24,284,790	△ 126,190	
個人正学準森機国賛	19,992,600	20,152,790	△ 160,190	
会費収入	( 17,530,200 )	( 18,431,790 )	( △ 901,590 )	
学生会員会費	( 2,462,400 )	( 1,721,000 )	( △ 741,400 )	
森機国賛	620,000	575,000	45,000	
学生会員会費	( 620,000 )	( 575,000 )	( 45,000 )	
国内助費	2,286,000	2,171,000	115,000	
国内助費	( 2,196,000 )	( 2,160,000 )	( 36,000 )	
国内助費	( 90,000 )	( 11,000 )	( 79,000 )	
国内助費	1,260,000	1,386,000	△ 126,000	
国内助費	( 1,260,000 )	( 1,386,000 )	( △ 126,000 )	
印刷業務収入	6,974,000	6,644,100	329,900	
印刷業務収入	6,270,000	5,592,100	677,900	
印刷業務収入	( 450,000 )	( 412,800 )	( 37,200 )	
印刷業務収入	( 20,000 )	( 3,000 )	( 17,000 )	
印刷業務収入	( 2,500,000 )	( 2,507,500 )	( △ 7,500 )	
印刷業務収入	( 150,000 )	( 183,300 )	( △ 33,300 )	
印刷業務収入	( 2,500,000 )	( 1,884,500 )	( 615,500 )	
印刷業務収入	( 250,000 )	( 223,500 )	( 26,500 )	
印刷業務収入	( 400,000 )	( 377,500 )	( 22,500 )	
印刷業務収入	470,000	1,052,000	△ 582,000	
印刷業務収入	( 200,000 )	( 173,000 )	( 27,000 )	
印刷業務収入	( 250,000 )	( 204,000 )	( 46,000 )	
印刷業務収入	( 0 )	( 213,000 )	( △ 213,000 )	
印刷業務収入	( 20,000 )	( 462,000 )	( △ 442,000 )	
印刷業務収入	234,000	0	234,000	
印刷業務収入	9,555,500	10,105,335	△ 549,835	
印刷業務収入	( 7,417,500 )	( 7,760,500 )	( △ 343,000 )	
印刷業務収入	( 1,342,000 )	( 1,176,000 )	( 166,000 )	
印刷業務収入	( 796,000 )	( 896,000 )	( △ 100,000 )	
印刷業務収入	( 0 )	( 272,835 )	( △ 272,835 )	
印刷業務収入	5,891,000	5,891,000	0	
印刷業務収入	( 3,891,000 )	( 3,891,000 )	( 0 )	
印刷業務収入	( 2,000,000 )	( 2,000,000 )	( 0 )	
印刷業務収入	1,130,000	1,240,000	△ 110,000	
印刷業務収入	( 1,130,000 )	( 1,240,000 )	( △ 110,000 )	
印刷業務収入	420,000	622,272	△ 202,272	
印刷業務収入	( 20,000 )	( 7,663 )	( 12,337 )	
印刷業務収入	( 200,000 )	( 598,759 )	( △ 398,759 )	
印刷業務収入	( 200,000 )	( 15,850 )	( 184,150 )	
事業活動収入計	48,129,100	48,787,497	△ 658,397	
2. 事業活動支出				
事業活動支出	23,071,000	21,690,547	1,380,453	
事業活動支出	20,650,000	20,032,220	617,780	
事業活動支出	( 15,500,000 )	( 15,114,360 )	( 385,640 )	
事業活動支出	(( 6,000,000 ))	(( 5,651,380 ))	(( 348,620 ))	
事業活動支出	(( 7,000,000 ))	(( 7,094,275 ))	(( △ 94,275 ))	
事業活動支出	(( 2,500,000 ))	(( 2,368,705 ))	(( 131,295 ))	
事業活動支出	( 2,880,000 )	( 2,214,141 )	( 665,859 )	
事業活動支出	(( 280,000 ))	(( 152,009 ))	(( 127,991 ))	
事業活動支出	(( 50,000 ))	(( 63,930 ))	(( △ 13,930 ))	
事業活動支出	(( 100,000 ))	(( 71,122 ))	(( 28,878 ))	
事業活動支出	(( 500,000 ))	(( 418,500 ))	(( 81,500 ))	
事業活動支出	(( 1,800,000 ))	(( 1,332,180 ))	(( 467,820 ))	
事業活動支出	(( 150,000 ))	(( 176,400 ))	(( △ 26,400 ))	
事業活動支出	( 2,270,000 )	( 2,703,719 )	( △ 433,719 )	
事業活動支出	(( 1,800,000 ))	(( 2,613,750 ))	(( △ 813,750 ))	
事業活動支出	( 400,000 )	( 33,755 )	( 366,245 )	
事業活動支出	(( 20,000 ))	(( 22,580 ))	(( △ 2,580 ))	
事業活動支出	( 50,000 )	( 33,634 )	( 16,366 )	
事業活動支出	1,800,000	782,682	1,017,318	
事業活動支出	( 1,350,000 )	( 710,640 )	( 639,360 )	
事業活動支出	( 350,000 )	( 65,222 )	( 284,778 )	
事業活動支出	( 100,000 )	( 6,820 )	( 93,180 )	
事業活動支出	15,000	0	15,000	
事業活動支出	( 10,000 )	( 0 )	( 10,000 )	
事業活動支出	( 5,000 )	( 0 )	( 5,000 )	
事業活動支出	230,000	429,438	△ 199,438	
事業活動支出	( 30,000 )	( 257,357 )	( △ 227,357 )	
事業活動支出	( 200,000 )	( 172,081 )	( 27,919 )	
事業活動支出	6,000	0	6,000	
事業活動支出	( 6,000 )	( 0 )	( 6,000 )	
事業活動支出	70,000	67,873	2,127	
事業活動支出	( 70,000 )	( 67,873 )	( 2,127 )	
事業活動支出	300,000	378,334	△ 78,334	
事業活動支出	( 300,000 )	( 300,000 )	( 0 )	

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
大会費	9,555,500	10,070,544	△ 515,044	
会場費	( 3,602,740 )	( 3,926,460 )	( △ 323,720 )	
印刷費	( 110,000 )	( 115,767 )	( △ 5,767 )	
親業	( 1,363,000 )	( 1,423,000 )	( △ 60,000 )	
行務	( 4,339,075 )	( 4,204,909 )	( △ 134,166 )	
念の	( 140,685 )	( 400,408 )	( △ 259,723 )	
記林業	10,773,450	10,461,419	312,031	
管業	130,000	208,018	△ 78,018	
人理	11,622,156	11,283,586	338,570	
給雑	7,682,156	7,782,738	△ 100,582	
法	( 5,682,156 )	( 5,900,962 )	( △ 218,806 )	
議	( 1,100,000 )	( 1,017,165 )	( 82,835 )	
定福	( 900,000 )	( 864,611 )	( 35,389 )	
費費	540,000	732,397	△ 192,397	
信運	50,000	12,828	37,172	
通品	250,000	429,906	△ 179,906	
消開	200,000	213,987	△ 13,987	
新開	10,000	8,230	1,770	
諸会	390,000	362,000	28,000	
支手	600,000	410,560	189,440	
賃借	900,000	864,960	35,040	
租税	650,000	253,400	396,600	
支報	300,000	210,000	90,000	
雑費	50,000	2,580	47,420	
事業	55,152,106	53,714,114	1,437,992	
活動	△ 7,023,006	△ 4,926,617	△ 2,096,389	
II 投資				
1. 投資				
特活	10,161,953	9,113,052	1,048,901	
名簿	( 1,800,000 )	( 1,207,164 )	( 592,836 )	
大会	( 3,752,450 )	( 3,296,385 )	( 456,065 )	
100	( 4,609,503 )	( 4,609,503 )	( 0 )	
投資	10,161,953	9,113,052	1,048,901	
2. 投資				
特活	590,000	540,000	50,000	
退職	( 340,000 )	( 340,000 )	( 0 )	
簿刊	( 250,000 )	( 200,000 )	( 50,000 )	
投資	590,000	540,000	50,000	
III 財務	9,571,953	8,573,052	998,901	
1. 財務				
2. 財務	0	0	0	
IV 予備	0	0	0	
当期	1,000,000	1,000,000	0	
前期	1,548,947	3,646,435	△ 2,097,488	
次期	5,104,408	5,104,408	0	
	6,653,355	8,750,843	△ 2,097,488	

## 収支計算書に対する注記

## (注) 1. 資金の範囲

資金の範囲には現金・預金・前払金・未収入金・仮払金・未払金・前受金・預り金及び仮受金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

## 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科目	前期末残高	当期末残高
現金	3,630,887	375,236
郵便振替	6,925,150	7,387,640
普通預金	6,163,412	8,320,946
大会前払金	311,497	1,000,000
未収入金	3,000	341,000
仮払金	1,006,140	1,000,000
合計	18,040,086	18,424,822
未払金	189,580	1,873,772
前受金	9,747,790	5,278,500
大会前受金	1,935,500	1,443,000
預り金	56,808	78,707
仮受金	1,006,000	1,000,000
合計	12,935,678	9,673,979
次期繰越収支差額	5,104,408	8,750,843



### ○別紙資料3 日本森林学会学術大会運営規則の一部変更

#### <学術大会運営規則変更の理由>

総会は、大会期間中に合わせて例年、3月に行ってきたが、2月から3月にかけて大会の決算準備業務や総会に向けての決算・監査対応等があり業務遂行が困難をきたしている。そこで総会を学術大会とは別に開催することとし、業務の分散を図るため。

#### <学術大会運営規則変更案>

##### 【1】学術規則第2条(学術大会)第2項を次のとおり変更する

- 2 理事会は、~~総会及び~~学会賞受賞者講演会を大会期間中に実施する。

#### 「新旧対比表」

新	旧
(学術大会) 第2条 年次学術大会（以下、大会という。）は、 会員による研究業績の発表のほか、一般を対象とした公開シンポジウムその他をもって開催する。 2 理事会は、 <del>総会及び</del> 学会賞受賞者講演会を大会期間中に実施する。 3 関連研究集会及び企業展示の機会を設けることができる。	(学術大会) 第2条 年次学術大会（以下、大会という。）は、 会員による研究業績の発表のほか、一般を対象とした公開シンポジウムその他をもって開催する。 2 理事会は、総会及び学会賞受賞者講演会を大会期間中に実施する。 3 関連研究集会及び企業展示の機会を設けることができる。
附 則 1. この規則は、平成23年6月15日から施行する。 2. 第3条第2項第6号の共催学会名は、九州支部の解散・移行に伴い決定される名称に変更する。 3. この規則は、平成27年5月28日から施行する	附 則 1. この規則は、平成23年6月15日から施行する。 2. 第3条第2項第6号の共催学会名は、九州支部の解散・移行に伴い決定される名称に変更する。

補足:本議案は、2015年4月28日、第452回理事会にて承認された。

#### ○別紙資料 4 2015(平成 27)年度事業計画

(1) 「日本森林学会誌」の発行：2015年4月、6月、8月、10月、12月および2016年2月の年6回発行し、科学技術振興機構のJ-STAGEで公開する。

(2) 「Journal of Forest Research」の発行：2015年4月、6月、8月、10月、12月および2016年2月の6回発行する。

(3) 「森林科学」の発行：2015年6月、10月および2016年2月の年3回の発行を行う。

(4) 「日本森林学会メールマガジン」の発行：第58号(2015年3月)～第69号(2016年2月)を発行する。

(5) ウェブサイトの更新：ウェブサイト更新を随時行い、最新情報を掲載する。大会ページの視認性・わかりやすさを更に高める。

(6) 第126回日本森林学会大会の開催：2015年3月26～29日に北海道札幌市(北海道大)において「第126回日本森林学会大会」を開催し、「第126回日本森林学会学術講演集」を発行する。

(7) 第127回日本森林学会大会の開催準備：「第127回日本森林学会大会」(2016年3月27～30日：日本大学)の開催を準備する。また、ウェブ登録システムによる大会発表申し込み等の受付をウェブサイト上で行う。

(8) 第128回日本森林学会大会の開催準備：鹿児島大学に所属する会員の中から大会運営委員長を委嘱し、大会運営委員会を設置する。

(9) 第129回日本森林学会大会の開催準備：応用森林学会に共催および大会担当機関の推薦を依頼する。

(10) 日本森林学会各賞の選考および日本農学賞等への推薦：日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会学生奨励賞、日本森林学会功績賞、Journal of Forest Research論文賞、日本森林学会誌論文賞、第126回日本森林学会大会学生ポスター賞の選考、および日本農学賞、日本農学進歩賞等への推薦を行う。

(11) 学会活動の活性化：会員拡大、ウェブサイトやメールマガジン等による広報活動、および連携学会・他学会・外部機関との連携強化を通じて、学会活動の活性化に努める。

(12) 社会への広報活動：第125回および第126回日本森林学会大会におけるシンポジウムの記録をウェブサイトで公開する。

(13) 男女共同参画の取り組み：第127回日本森林学会大会における男女共同参画事業を企画し、準備を進める。男女共同参画学協会連絡会の活動に参加して、情報交換に努め、学会のウェブサイトやメールマガジンを通して情報提供に努める。

(14) JABEE(日本技術者教育認定機構)への協力：JAFEE(森林・自然環境技術者教育会)の基幹的な学会として、JABEEやJAFEEの活動・運営に協力するとともに、関連学協会との連携を図ることにより、森林分野の技術者教育の向上を進める。CPD(技術者継続教育)事業の推進に協力する。森林・林業人材育成のためのシンポジウムを開催する。引き続き森林・林業技術者教育の動向について発信するとともにJABEEの普及に努める。

(15) 他学会との連携：各連携学会(北方森林学会、東北森林科学会、関東森林学会、中部森林学会、応用森林学会、九州森林学会)大会を共催し、役員の派遣を通じた交流を行う。「日本森林学会と日本木材学会との交流に関する覚書」に従い、木材学会と交流する。また、木材学会・土木学会とともに「木材の利用拡大に関する横断的研究会」を運営する。日本農学会の運営に協力する。

(16) 学術シンポジウム等の開催・広報：他学会・外部機関との交流を含め活動する。第127回日本森林学会大会における公開シンポジウムの準備を進める。

(17) 国際学術交流の推進：東アジアをはじめとする諸外国との国際的学術交流を進める。

(18) 日本学術会議等への協力・連携：社会連携委員会は、当学会に関する情報発信を積極的に行う。日本学術会議および森林・木材・環境アカデミーの活動に協力する。日本学術会議連携委員会の社会連携委員会委員への就任により、さらに連携を深める。

(19) 国内研究機関連携の推進：国内研究機関間の研究情報交換の実態把握のために、森林学会の会員動向調査を続ける。国内研究機関、特に地方研究機関の意識調査を行う。

(20) 各種補助金の申請：科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開促進費(国際情報発信強化、学術図書、データベース)」の「国際情報発信強化(B)」および「研究成果公开发表B」に応募申請する。

(21) 他機関等からの賞、奨励金等の候補の推薦：ウェブサイト、メールマガジン等により公募し、候

補者を推薦する。

(22) 学会運営の改善：財政の健全化への取組を継続し、電子メールを活用し、会議費や通信費を節約する。

(23) 林業遺産の選定：2015年度日本森林学会総会において、2014年度に選定された林業遺産を発表する。本年度の林業遺産候補の推薦公募を行い、審議・選定活動を行う。

(24) 中等教育との連携：第126回日本森林学会大会において高校生のポスター発表を実施し、良かった点や課題等整理をする。実施体制についても、再検討する。2015年度大会における高校生ポスター発表の実現に向けて活動する。行動計画に基づき、他の連携の可能性を議論し、計画する。

(25) 代議員および理事・監事候補選挙：2016年5月から2018年5月を任期とする代議員および理事・監事候補選挙を行う。

## ○別紙資料5 2015(平成27)年度予算

### 2015年度予算

2015年3月1日から2016年2月29日まで

科 目	日本森林学会 2014年度予算 (2014.3~2015.2)	2014年度決算 (2014.3~2015.2)	2015年度予算 (2015.3~2016.2)	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
会費収入	24,158,600	24,284,790	24,260,000	※2
事業収入	6,974,000	6,644,100	6,405,000	
印刷物収入	6,270,000	5,592,100	5,585,000	※2
広告料収入	470,000	1,052,000	820,000	※2
印税収入	234,000	0	0	
大会開催収入	9,555,500	10,105,335	9,052,500	
補助金等収入	5,891,000	5,891,000	0	
寄付金収入	1,130,000	1,240,000	0	
雑収入	420,000	622,272	612,500	※2
<b>事業活動収入計</b>	<b>48,129,100</b>	<b>48,787,497</b>	<b>40,330,000</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
事業費支出	23,071,000	21,690,547	21,875,600	
会誌等刊行費	20,650,000	20,032,220	20,704,600	※1, ※2
名簿刊行費支出	1,800,000	782,682	0	※3
企画広報費支出	15,000	0	15,000	※1
表彰費支出	230,000	429,438	300,000	※2
HP活動費支出	6,000	0	6,000	※1
男女共同参画費	70,000	67,873	70,000	※2
学術振興費	300,000	378,334	380,000	※2
役員選挙費支出	0	0	400,000	2013年度決算を参照
大会事業費支出	9,555,500	10,070,544	9,052,500	
記念事業費支出	10,773,450	10,461,419	0	※3
林業遺産事業費	130,000	208,018	200,000	※2
管理費支出	11,622,156	11,283,586	11,440,000	
人件費支出	7,682,156	7,782,738	7,860,000	※2
会議費	540,000	732,397	740,000	※2
旅費交通費	50,000	12,828	30,000	※2
通信運搬費	250,000	429,906	310,000	※2
消耗品費	200,000	213,987	200,000	※2
新聞図書費	10,000	8,230	10,000	※2
諸会費	390,000	362,000	370,000	※2
支払手数料	600,000	410,560	450,000	※2
賃借	900,000	864,960	900,000	※2
租税公課	650,000	253,400	300,000	※2
支払報酬料	300,000	210,000	250,000	※2
雑費	50,000	2,580	20,000	※2
<b>事業活動支出計</b>	<b>55,152,106</b>	<b>53,714,114</b>	<b>42,568,100</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 7,023,006</b>	<b>△ 4,926,617</b>	<b>△ 2,238,100</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>				
特定資産取崩収	10,161,953	9,113,052	0	
名簿積立取崩収	1,800,000	1,207,164	0	
大会資産取崩収	3,752,450	3,296,385	0	
100周年取崩収	4,609,503	4,609,503	0	
投資活動収入計	10,161,953	9,113,052	0	
<b>2. 投資活動支出</b>				
特定資産取得支	590,000	540,000	550,000	
退職資産取得支	340,000	340,000	350,000	今年度より+10,000
名簿積立取得支	250,000	200,000	200,000	webシステム化で減
大会資産取得支	0	0	0	
投資活動支出計	590,000	540,000	550,000	

投資活動収支差額	9,571,953	8,573,052	△ 550,000
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
<b>Ⅳ 予備費支出</b>	1,000,000	0	0
当期収支差額	1,548,947	3,646,435	△ 2,788,100
前期繰越収支差額	5,104,408	5,104,408	8,750,843
次期繰越収支差額	6,653,355	8,750,843	5,962,743

備考

※1 2014年度予算を参照

※2 2014年度決算を参照

※3 今年度は計上せず

## ○別紙資料6 内規の改正

### 1) Journal of Forest Research 編集委員会内規の改正について

#### <改正内容>

「海外在住あるいは言語の関係で、編集委員会運営に十分参加することが困難な編集委員」を海外編集委員と考え、編集会議およびその議決への参加を義務でないようにするため、JFR 編集委員会内規の改定を行った。

#### 「新旧対比表」

新	旧
<p>2. 委員会の構成 編集委員会には次の構成員を置く。</p> <p>1. 編集委員長, 1名。 2. 編集委員長補佐, 1名。 3. 常任編集委員, 各専門部門に1～複数名。 4. <u>海外編集委員, 各専門部門に若干名。</u> 5. 特集限定編集委員, 必要に応じて若干名。 6. 編集主事, 1名。</p>	<p>2. 委員会の構成 編集委員会には次の構成員を置く。</p> <p>1. 編集委員長, 1名。 2. 編集委員長補佐, 1名。 3. 常任編集委員, 各専門部門に1～複数名。 4. 特集限定編集委員, 必要に応じて若干名。 5. 編集主事, 1名。</p>
<p>3. 構成員の職務</p> <p>3. 常任編集委員 常任編集委員は担当専門部門における原稿の審査を担当するとともに、編集委員会の円滑な運営に貢献する。</p> <p>4. <u>海外編集委員</u> <u>海外編集委員は常任編集委員とともに担当専門部門における原稿の審査を担当するとともに、編集委員会の運営に加わることができる。</u></p> <p>5. 特集限定編集委員 特集限定編集委員は常任編集委員と協力して特集号の編集に当たり、特集に関わる原稿の審査を分担する。また、出版の際は主事に代わって初校を行う。</p> <p>6. 編集主事 編集主事は原稿審査以外の事項に関して編集委員長を補佐する。</p>	<p>3. 構成員の職務</p> <p>3. 常任編集委員 常任編集委員は担当専門部門における原稿の審査を担当するとともに、編集委員会の円滑な運営に貢献する。</p> <p>4. 特集限定編集委員 特集限定編集委員は常任編集委員と協力して特集号の編集に当たり、特集に関わる原稿の審査を分担する。また、出版の際は主事に代わって初校を行う。</p> <p>5. 編集主事 編集主事は原稿審査以外の事項に関して編集委員長を補佐する。</p>
<p>4. 構成員の任期</p> <p>3. 常任編集委員 2年2期を原則とし、2年ごとに半数が交代する。ただし、留任や再任を妨げない。</p>	<p>4. 構成員の任期</p> <p>3. 常任編集委員 2年2期を原則とし、2年ごとに半数が交代する。ただし、留任や再任を妨げない。</p>

<p>4.海外編集委員 原則として、編集委員長の認める期間、あるいは本人からの退任の申し出があるまでとする。</p> <p>5.特集限定編集委員 特集企画承認後に委嘱されてから、特集号が発行されるまでの期間とする。</p> <p>6.編集主事 2年1期とする。</p>	<p>4.特集限定編集委員 特集企画承認後に委嘱されてから、特集号が発行されるまでの期間とする。</p> <p>5.編集主事 2年1期とする。</p>
<p>5. 編集委員会の会議</p> <p>3. <u>特集限定編集委員以外の構成員は編集会議に参加する資格を持つ。また、特集限定編集委員および海外編集委員以外の構成員は編集会議に参加する義務を負う。</u>ただし、特集の内容を検討する会議については、編集委員長が特集限定編集委員に参加を要請することができる。</p> <p>4.特集限定編集委員以外の構成員は、編集委員長に対して議案の提案を行うことができる。</p>	<p>5. 編集委員会の会議</p> <p>3.編集会議には、特集限定編集委員以外の構成員が参加する資格を持ち義務を負う。ただし、特集の内容を検討する会議については、編集委員長が特集限定編集委員に参加を要請することができる。</p> <p>4.特集限定編集委員以外の構成員は、編集委員長に対して議案の提案を行うことができる。</p>
<p>5.2. 電子編集会議の開催、成立および議決方法</p> <p>2.電子編集会議は、採決時の投票数を出席者数とみなし、<u>編集委員長及び2/3の常任編集委員の出席で成立する。</u></p>	<p>5.2. 電子編集会議の開催、成立および議決方法</p> <p>2.電子編集会議は、採決時の投票数を出席者数とみなし、2/3の編集委員の出席で成立する。</p>

補足:本変更は、2015年4月28日、第452回理事会にて承認された。

## 2) 日本森林学会表彰規則運用内規の改正について

### <改正内容>

電子ファイルを利用して審査を行うことを可能とするため、および実際の運用に則して改正を行った。

### 「新旧対比表」

新	旧
<p>4. 日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会功績賞及び、日本森林学会学生奨励賞及び日本農学賞候補業績の選考は次のとおり行う。</p> <p>1) 各賞の推薦にあたっては、次の事項を記した文書及び必要に応じて電子ファイルを提出させるものとする。</p> <p>(1) 候補者の候補業績概要(A4判1枚表裏)</p> <p>a. 表彰区分(日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会功績賞、日本森林学会学生奨励賞、または日本農学賞候補)</p> <p>b. 候補業績の著者の氏名、生年月日、所属、連絡先</p> <p>c. 候補業績の名称(日本森林学会奨励賞、日本森林学会学生奨励賞についてはdの題名と同一)</p> <p>d. 候補業績の発表年月日及び発表媒体(雑誌名等)、著者名、題名(功績賞、日本農学賞候補については不要)</p> <p>e. 候補業績の概要(2,000字以内、共著の場合は共著者名及び分担内容等の記載)</p> <p>(2) 推薦者の氏名、<u>所属</u>、連絡先(A4判1枚、<del>所属</del>、勤務先と自宅の住所、電話番号、メールアドレス等)</p>	<p>4. 日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会功績賞、日本森林学会学生奨励賞及び日本農学賞候補業績の選考は次のとおり行う。</p> <p>1) 各賞の推薦にあたっては、次の事項を記した文書を提出させるものとする。</p> <p>(1) 候補者の候補業績概要(A4判1枚表裏)</p> <p>a. 表彰区分(日本森林学会賞、日本森林学会奨励賞、日本森林学会功績賞、日本森林学会学生奨励賞、または日本農学賞候補)</p> <p>b. 候補業績の著者の氏名、生年月日、所属、連絡先</p> <p>c. 候補業績の名称(日本森林学会奨励賞、日本森林学会学生奨励賞についてはdの題名と同一)</p> <p>d. 候補業績の発表年月日及び発表媒体(雑誌名等)、著者名、題名(功績賞については不要)</p> <p>e. 候補業績の概要(2,000字以内、共著の場合は共著者名及び分担内容等の記載)</p> <p>(2) 推薦者の氏名、連絡先(A4判1枚、所属、勤務先と自宅の住所、電話番号、メールアドレス等)</p>

<p>4)選考作業の日程はおおむね次のとおりとする。</p> <p>(1)候補業績の会員推薦受付 7～9 月</p> <p>(2)表彰委員への審査依頼 10 月</p> <p>(3)投票 11 月</p> <p>(4)理事会への報告, 受賞者の決定 12 月</p> <p>(5)総会学術大会での表彰 <del>43</del> 月</p>	<p>4)選考作業の日程はおおむね次のとおりとする。</p> <p>(1)候補業績の会員推薦受付 7～9 月</p> <p>(2)表彰委員への審査依頼 10 月</p> <p>(3)投票 11 月</p> <p>(4)理事会への報告, 受賞者の決定 12 月</p> <p>(5)総会での表彰 4 月</p>
--	--

補足:本変更は, 2015 年 4 月 28 日, 第 452 回理事会にて承認された。

### 3) 日本森林学会林業遺産選定内規の改正について

#### <改正内容>

実際の運用に則して内規を改定した。

#### 「新旧対比表」

新	旧
<p>(公表)</p> <p>第 11 条 選定された各年度の林業遺産は, 原則として同次年度の学術大会定時総会時に会長が発表する。</p>	<p>(公表)</p> <p>第11条 選定された各年度の林業遺産は, 原則として同年度の学術大会時に会長が発表する。</p>

補足:本内規の制定は, 2015 年 5 月 19 日, 2015 年度第 3 回メール理事会にて承認された。